

泉のほとり

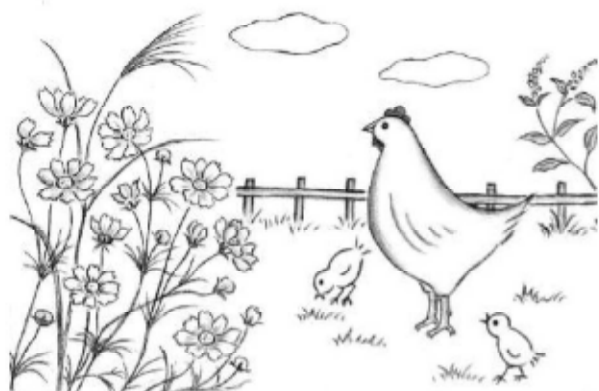
・三位一体後第十六主日

今月の詩編「第十六編」

わたしは主をたたえます。

主はわたしの思いを励まし

わたしの心を夜ごと論してください。



惜しまず豊かに

エルサレムにいるユダヤ人の弟子たちがとても貧しい境遇におかれていたの知らせを受けた使徒パウロと彼に連なる諸教会は、エルサレムのその弟子たちを助けようと思いました。第二コリント8章と9章には使徒パウロがコリントの教会にも、一緒に助けようと呼びかけている内容が記されています。その中でも9章は、渋りながら、惜しみながらではなく、喜んで惜しまず与えるようにと教えています。

自分の物を惜しむ人は与えようとしません。しかし、人は惜しみながらも分け与えることはできます。この世においてはそれも評価され、立派なことと言われると思います。しかし天の国はそうではありません。福音はキリストがご自身を惜しまず与えられたように、キリストの弟子たちにも「惜しまず与える」ことを教えています。

マケドニア州にいた弟子たちはエルサレムの弟子たちが困難にあると聞いて、実は彼ら自身、苦しめと激しい試練の中にあつたにも関わらず、自ら進んでエルサレムの弟子たちに力になりたいとききりに願ひ出たのでした。そして自分たちの力以上に、惜しみなく与えたことを見た使徒パウロは自分を通して語られた「神の言葉」がこの人たちをこんなにも豊かな者へと変えられたことを見て、言い尽くせない感謝を抱いていたと思います。私の想像ですが、マケドニアの弟子たちは、キリストから与えられた宝があまりにも大きかったため、自分の体における必要を分け与えることは少しも惜しいと思わなかったと思います。それは当然のこと、エルサレムの

弟子たちが今困っているのだから、と。そして彼らの抱いていた、惜しまず豊かに与える心はご自身を惜しみなく与えられたキリストの霊が、彼らの中で「方」として働いていたからにはかならないと思うのです。

使徒パウロはマケドニア、アカイア州にいる弟子たちと同じ福音を受けたコリントにいる弟子たちにも、惜しまず豊かに与えるべく、8章と9章に渡ってその根拠を多少長く説明し、また教えています。ここで言おうとしていることは明瞭です。「今、エルサレムにいる弟子たちが大変な苦しい状況の中で過ごしている。我らの兄弟が今事欠いている。それを知っているが何もしいでいられようか」ということです。その手紙を書いたパウロ自身、何もしないでいることができませんでした。その一心ゆえに自分を惜しまなかつたと思います。これが「愛」です。しかし兄弟にしてみれば、それは「当然」のことでした。

エルサレムの兄弟たちが今大変な境遇にある。パウロと、またパウロから福音を聞いた人たちが一つになつて、エルサレムの人たちを助ける。自分たちも決して豊かではなかつたと思います。なお苦しめと試練の中で、自分たちのことよりエルサレムの人たちを心配し、自分たちの身を削りながら与える初代教会の弟子たちの姿。エルサレムの弟子たちも彼らに感謝しつつ、彼らの中にキリストが生きていることを見たのではないのでしょうか。私たちの教会がこの世にある限り、歩み続け、求め続ける「愛し合う教会の姿」を見せているのではないかと思います。

あなたへの思いが日覚める時

天におられるわたしたちの父よ、
わたしたちの心に

あなたへの思いが目覚めるそのとき、

わたしたちが、

恐れのみぎりあたふたと飛び回る

鳥のようではなく、

天上の笑顔を映し出して

眠りから目をさます、

おさなごのようでありませうように。

教えてください、神さま

教えてください、ああ、神さま

息の詰まるような自己反省によって、

自分の目のもとで

自分を殉教させることではなく、

信仰の中で深く呼吸することを、

われらの主、

イエス・キリストによって。

平野克己著 「祈りのともしび」より

キルケゴールの祈り

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒースービスがあります。園舎二階のリズム室ではどのような会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○クリスマス礼拝で受洗・転入会を御希望の方は、入信記を書いて、来週二三日までに、牧師あてご提出ください。

○毎年九月に、説教熟への献金をお願いします。今年も事務所のカウンターに献金袋を用意しました。献金は事務所にお預けください。

○禁園香音楽伝道師は、ブラジルでの宣教の旅を終えて、先週二日(水)に帰国されました。今週は二日(土)に恵みシャレー軽井沢の「いのちの風・音楽祭」で奉仕をされます。お祈りください。

○附属幼稚園のホームページ(HP)ができました。アドレスは、<https://shinagawa-yochien.om>

「グローリアチャペル」のHPから「附属幼稚園案内」ページに入って下さり、「公式ウェブサイトをクリックする」と聞けます。どうぞご覧ください。

四国だより

「開拓十周年の本を持参しなさい。」そこに至る思いが微塵もなかった私はとてもびつくりしました。「主よ、何冊でしょうか？」主は十二冊」とお答え下さいました。お店にその事をお尋ねすると「本を置く棚もありませんのでどうぞどうぞ」と快諾して下さいました。作品はどれも自分のために作った物ですから、お見せする程のものではないと思いましたが何かのお役に立てるのであればと了解いたしました。記念誌を主がはつきりとお示しになった時、手作りの帽子を一つお用い下さったあの瞬間に御恵みの川が流れはじめていたという現実を悟りました。幸いなことに来店された方々によって記念誌は持ち帰られておりました。

一ヶ月の展示も終り作品を取りに行きましたら「今後もお忙しい毎日と思いますが是非一年に一回のご協力を宜しくお願致します」と依頼をいただきました。一瞬は迷いましたが、この現実の主のお導きの線上にある事と信じ、努力しようと思ひ感謝してお返事をいたしました。涼しい九月が早く訪れますようにと祈りつつ、吉村先生、黄先生、菊池先生、教会員の皆様の尊いとりないのお祈りに深く感謝しております。

二〇一八年八月二十二日

田端良恵

聖書の会へどうぞ

9月19日(水)

●朝の聖書の会(10時)

死に打ち勝つ力

マタイ16章13〜20節

吉村和雄 牧師

●聖書の夕べ(19時)

「同じ人間です」

使徒14章8〜18節

黄允浚 副牧師



ミニコンサート

10月28日(木) 12時30分より

バイオリン独奏 中川あんな



次週礼拝

●一回礼拝(午前10時00分)

讚美歌 301番 讃21 361番

説教 「苦しみ」ことを喜びとして

聖書 コロサイ1章21〜29節

説教者 吉村和雄 牧師

第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 301番

讃21 361番

説教 「罪を取り去るために」

聖書 ヘブライ9章23節～28節(新約P411)

司式 石川 一 兄

説教者・聖餐司式 古村 和雄 牧師

前奏曲「イエス我が信頼」 J.G.グァー

○ 讃美歌 301番

1. 山べにむかいてわれ 目をあぐ
助けはいずかたより きたるか
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる
2. み神はなれの足を つよくす
み守りあればなれば うごかじ
みたみをば守るもの まどろみねむりまさじ
3. み神はあだをふせぐ たでなり
ながみをつねに守る かげなり
よるは月、ひるは日も なれをばそこなうまじ
4. み神はわざわいをも さけしめ
疲れしたましいをも やすます
いずるおり、いるおりも

たえせずなれを守らん アーメン

○ 教会学校生徒による讃美

「主のためなら」

○ ヴィオラによる讃美

「鳥の歌」 P.ガザ

○ 讃21 361番

1. この世はみな 神のせかい
あめつちすべてが 歌いかわす
岩も木々も 空も海も
み神のみわざを ほめたたえる
2. この世はみな 神のせかい
鳥の音 花の香 主をたたえる
朝日 夕日 空に映えて
み神のみわざを 語り告げる
3. この世はみな 神のせかい
悪魔の力が 世に満ちても
わが心に 迷いはなし
主こそがこの世を治められる アーメン

聖餐曲「グラウンド」 H.バート

後奏曲「フーガ」 C.バッハ

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 55番 268番

詩篇 第16編(旧約P845)

説教 「深く憐れまれた」

聖書 マタイ9章27節～38節(新約P16)

司式 石川 一 兄 聖餐司式 古村 和雄 牧師

説教者 黄 允湜 副牧師

前奏曲「御神より離れじ」 J.S.バッハ

○ 讃美歌 55番

○ ヴィオラによる讃美

「鳥の歌」 P.ガザ

○ 聖歌隊による讃美

「主の御名のみいつ」 T.ワグ

主の指の業なる月星を見上げ

主の御心を思う 人は何者ゆえ かえり見られる

少し神より 人を低く造り

栄と誉れ与え 全ての造られしもの

その足の下に置かれた

何者ゆえ人をかえりみ給うや

主の御名のみいつと 栄光は

地をこえ 天に満ちる 御神を幼な子 たたえ歌う

我らも共に歌わん ハレルヤ ハレルヤ

主の御名のみいつ栄光 ハレルヤ ハレルヤ

○ 讃美歌 268番

聖餐曲「対話」 L.N.ルネボ

後奏曲「フーガ」 C.バッハ

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。